

■会場 福井県総合グリーンセンター (〒910-0336 坂井市丸岡町桑間 15)
ふくい林業研修センター 多目的ホール

- 対象者 建築士、建築を学ぶ学生
- 定員 15名 ※原則、全ての講座を受講できる方 ※定員に達し次第締切ます
- 受講料 無料
- 主催 福井県 [担当課 農林水産部 県産材活用課]

応募締切
10月16日(金)

かつて日本の地域社会にみられた、木を育てる川上と木を活用する川下の共生関係は失われて久しく、日本の林業は衰退の一途にあります。昨今、ようやく国産材による住宅以外の木造建築が注目され始めていますが、一足飛びに中高層ビルやスタジアムなどの大型開発への応用や、それに伴う高度技術の導入が耳目を集め、林業をはじめとする地場産業と建築との共生関係の再構築いう、地域社会の持続性に関する視点は未成熟なままにあります。

本研修の目的は、「山と地域社会の持続的な相互関係の強化に寄与する建築の在り方を問い、実践する設計者の育成」にあります。そもそもなぜ木造建築がこれからの社会に必要なのかという根本的な問いかけに発し、人材・素材・技術といった既得の資源の活用を発展させることで、地域社会の未来にとって価値ある木造建築の在り方を追求することをカリキュラム方針としています。

10/31(土)

森と建築「山がよろこぶ木材活用」

9:00~12:00

物林株式会社
新事業推進部長
大貫 肇

古来の日本社会にあった資源の持続的活用の仕組みと対比しつつ、現代の国産材活用の課題を川上川下連携(分断)の視点から分析する。縦割り社会の中で建築設計者に伝わることのなかった山と建築の関係性について講義。

13:30~16:30

九州大学
准教授
藤本 登留

木の材料学「素材の理(コトワリ)」

木材が多様な生物材料であることが、木造建築の難しさであり、楽しさでもある。木材利用の必須技術である乾燥に着目し、木材固有の“動き”の他、生理・心理的機能についても講義。

11/7(土)

9:00~16:30

法政大学
教授
網野 禎昭

デザインの社会性「山と地域社会をつなぐ建築」

日本に先駆けて木材活用による持続的社会的実現に着手したヨーロッパの中山間地域の木材建築と、その歴史的・地理的背景を題材に、山と地域社会をつなぐデザインについて講義。

11/14(土)

9:00~16:30

法政大学
専任講師
宮田 雄二郎

設計手法「中大規模木造の耐震設計と持続可能性について」

木造建築の規模階級の拡大にとって必要となる耐震性能を一般流通材によって実現する手法や地域性や環境の視点から見た木構造の在り方について、実例と対比しながら講義。木材と他材料とのハイブリットが生む可能性についても触れる。

11/21(土)

9:00~16:30

河野泰治アトリエ
主宰
河野 泰治

設計手法「木を活かす防耐火のデザイン」

木造建築を戸建住宅以外の用途に展開する際の技術的な関門の一つが防耐火設計である。特殊な耐火技術を用いることなく、一般的な設計手法の工夫によって広がる木造建築の可能性について、実例分析を中心に講義。

11/28(土)

9:00~16:30

ウッド・ハブ合同会社
代表
實成 康治

設計手法「中大規模木造の経済設計」

非住宅木造は高コストという通念をひっくり返す。構造設計と接合金物開発の経験を活かしプレカット・流通材・既成金物など普及技術をベースに、大断面集成材や制作金物を取り入れたベストミックスによる経済設計手法を具体的かつ即戦的に講義。

ホルツアーキテクト 地域をつくる木造建築家を目指す

「ホルツアーキテクト育成講座」受講申込書

氏名	所属
住所	
TEL	FAX
メール	携帯電話

※所属欄には勤務先・大学名を記入してください

■申込・問合せ 福井県木材組合連合会 〒918-8233 福井市合島町 3-1

TEL:(0776)50-3625 FAX:(0776)50-3626

E-mail:fuji_makura@fuji_makura.jp